

## 2019年度 事業計画

公益財団法人 日本博物館協会

## 1. 博物館の普及啓発に関する事業

### 1) 月刊誌「博物館研究」の刊行

博物館の総合研究情報誌として、内外の動向を反映しつつ博物館の取り組むべき課題について、毎号特集テーマを設定して内容の充実を図るとともに、博物館関連の最新情報、地方の動向、海外ニュース等各種情報の提供に努める。特に 9 月開催予定の ICOM（国際博物館会議）京都大会関連情報に注力する。また、発行部数の拡大に努め、今後の編集方針等についての検討を継続する。

### 2) 全国博物館大会の開催

第 67 回全国博物館大会を、京都府、京都市の協力のもとに、文化庁、観光庁の後援を得て、9 月 5 日（木）単日で、京都府立京都学・歴彩館において開催する。

本大会は、9 月 1 日（日）～7 日（土）の期間、国立京都国際会館で開催される ICOM 京都大会 2019 に参加する日本国内の博物館関係者の利便性を重視し、同大会のオフサイトミーティングが予定される 9 月 5 日（木）に合わせて計画された。

単日のため、参加費を一人 2,000 円とし、テーマも ICOM 京都大会 2019 と同じ「文化をつなぐミュージアムー伝統を未来へー」とする。

### 3) 全国博物館長会議の開催

博物館運営の中核である館長を対象に、全国博物館長会議を、文化庁との共催のもとに、7 月 3 日（水）に文部科学省講堂で開催する。文化庁の博物館担当官等による 2019 年度事業の行政説明及び当協会の 2019 年度事業計画等の説明を行うとともに、博物館運営及び館長のリーダーシップなどについてシンポジウム等を行う。

## 2. 博物館に対する支援に関する事業

### 1) 博物館利用支援機器の支給

子育て世代、高齢者、障がい者等の博物館の利用の促進を図り、これらの人々の文化的、知的要求に応えるとともに、生き甲斐と豊かな生活を支援するため、一般財団法人日本宝くじ協会の助成を得て、今年度は車いす・ベビーカー・シルバーカーの支給を行う。

支給予定台数	車いす	100 台
	ベビーカー 帆なし	100 台

## 2) 博物館絆プロジェクトの実施

発災から8年が経過したが、未だ復興の途上にある東日本大震災のみならず、地震や豪雨災害等による博物館や文化財に対する被害が続いている状況に鑑み、大規模災害時の博物館・文化財被害への継続的対応のため平成24年度に立ち上げた「博物館絆プロジェクト」を今年度も継続する。

今年度は、引き続き、国立文化財機構を中心とする「文化財防災ネットワーク」の構成団体として、博物館の防災体制の整備を進めるとともに、平成26年度から文化庁の補助金事業として実施している「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」を継続する（文化庁の平成31年度文化芸術振興費補助金を申請中）。なお、今後発生が危惧される大規模災害への対応を含め、引き続き募金・寄付の募集、救援事業への参加者募集を継続する。

## 3. 博物館に関する調査研究及び情報の収集・提供に関する事業

### 1) 今後の博物館制度の在り方に関する調査研究

当協会の「博物館登録制度の在り方に関する調査研究」及び、日本学術会議等との連携の下に、今後の博物館制度の在り方について検討を進める。今年度は、来たる ICOM 京都大会における「博物館の定義見直し」についての議論における国際的動向を踏まえるとともに、国内の博物館運営に関する実態把握のために博物館総合調査を実施する。また、今後の検討に際しては、文化庁等国の機関をはじめ、日本学術会議や ICOM 京都大会学術委員会、関連学会等との連携の下に、博物館法等の改正を含め、今後日本の博物館全体の振興に資する制度の在り方を検討し、日博協としての方向性を示す。

### 2) 博物館に関する情報の提供

- ① 全国博物館園職員録等を刊行し、博物館活動に必要な情報を提供する。
- ② 全国の博物館の所在地、交通案内、収蔵品、常設展示等について記載した全国博物館総覧の編集を行い、博物館活動の連携を推進するための情報を提供する。

## 4. 博物館関係者の資質の向上に関する事業

### 1) 研究協議会の開催

博物館の学芸員をはじめ職員の資質の向上を図るため、当面する諸課題を含め博物館運営に関する理論と実際について 2～3 テーマを設定し、2 日間のプログラムとして全国から会場を選定し開催する。

## 2) 顕彰の実施

博物館に永年勤続し功労のあった博物館職員等に博物館功労賞を授与するとともに、前年度「博物館研究」に掲載された優れた論文について棚橋賞を、また、優れた実践報告等に対する博物館活動奨励賞を授与し、その功績を顕彰する。

また、平成 30 年度に日本博物館協会創設 90 周年を記念して実施した特別表彰を発展的に継続させるとともに、これまで 5 年にわたり推薦を行ってきた **the Best in Heritage** への推薦要件としても活用するために、会員施設を対象とする「日本博物館協会賞（仮称）」の創設に向けた検討を行う。

## 3) 美術品梱包輸送技能取得士資格認定事業の実施

平成 24 年度から試行実施した美術品梱包輸送技能士資格認定事業（平成 25 年度から美術品梱包輸送技能取得士資格認定事業と改称）については、平成 25 年度に 1 級（上級）資格の試行試験を終了したことに伴い、平成 26 年度から、3 級（初級）、2 級（中級）、1 級（上級）について、本格実施している。

受験希望者の多い 2 級および 3 級は今年度も 2 月に土・日の 2 日間連続で開催する。2 級の面接免除者、3 級の筆記免除者の制度は継続する。1 級については本年度も 8 月に定員 10 名で実施する。

大手業者と中小業者で合格率、合格者数の格差が生じているため、中小業者が実技を習得しやすくなる方法を模索し、裾野を広げる努力をする。

また、資格認定制度の普及を図るため、各博物館及び関係機関に、美術品の梱包輸送に当たっては、本認定資格者を有する美術品取扱い業者を優先して採用するよう引き続き働きかけていく。

## 5. 博物館の国際交流に関する事業

### 1) ICOM 京都大会 2019 の開催

2019年9月1日～7日にかけて、国立京都国際会館で開催されるICOM京都大会2019をICOM本部、ICOM日本委員会、ICOM京都大会2019組織委員会、日本学術会議とともに主催する。

当協会会員館関係者の参加促進を図るとともに、運営資金の醸成においては、当財団のICOM京都大会2019組織委員会口座を利用して、幅広く多くの関連団体ならびに個人からの寄付金を募集する。あわせて、各ICOM国際委員会の通訳費の確保や運営要員の負担軽減等のための方策を講じる（文化庁平成31年度文化芸術振興費補助金を申請中）。

また、海外に向けた情報発信推進を目的として、協会ならびに日本の博物館について紹介するブースを出展し、広報に努める。

## 2) 「国際博物館の日」事業の実施

ICOM（国際博物館会議）が世界規模で行う「国際博物館の日」と連動して、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールするため、例年どおり5月18日の「国際博物館の日」を中心として、文化庁の後援を得て、全国の各博物館において、入館料の無料化、記念品の作成・配付、展示会の企画、講演会の開催等の記念行事を展開する。本事業の広報のためにPR用ポスターを作成し、国内の各博物館及び関係機関に広く配布し、博物館の存在と活動の広がりをアピールする。2019年（平成31年）の国際博物館の日のテーマはICOM京都大会と共通の「文化をつなぐミュージアムー伝統を未来へー“Museums as Cultural Hubs: the Future of Tradition”」である。

また本年ICOM京都大会に向け、大会テーマに沿った特別講演会を5月17日（金）に東京で、シンポジウムを5月26日（日）に京都で、それぞれICOM国内委員会等との共催で開催し、大会への機運を高める。

3) ICOM京都大会2019を、日本の博物館のさらなる振興と国際化を図る契機とするため、大会のレガシーのあり方を検討し、各方面の博物館関係者を交えてその具現化を図る。

4) 月刊誌「博物館研究」において、国際交流関係の情報を充実するとともに、ICOM京都大会の最新情報を継続して掲載し、ICOM京都大会への積極的な参加を呼び掛ける。

## 6. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1) 各地区単位の博物館の会議に共催者として職員の派遣及び情報提供等の支援を行う。

2) 希望会員館園を構成員として、施設賠償責任保険（賠償責任保険制度）及びレジャー・サービス施設費用保険（見舞金制度）の団体加入の周知と加入促進に努め、入館者に対する安心・安全の確保を図る。